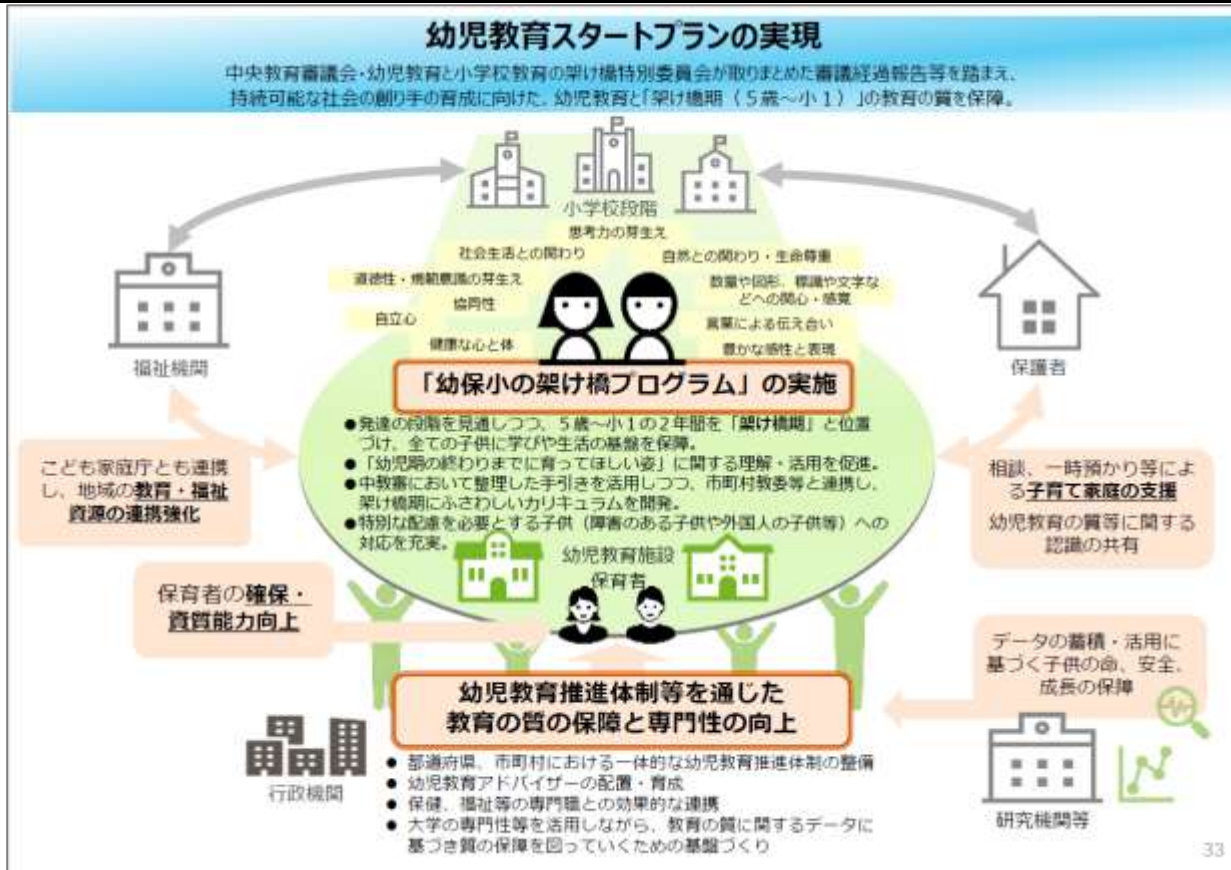


3 学びの連続性に配慮した幼児期の教育と小学校教育の接続の推進

- 発達や学びは連続しているため、就学前教育施設から小学校への移行を円滑にする必要があります。
- 就学前教育施設における教育・保育は、乳幼児期の発達に応じて子どもの生きる力の基礎を育成するものです。特に、子どもなりに好奇心や探究心をもち、問題を見出したり、解決したりする力を育てること、豊かな感性を発揮したりする機会を提供し、それを伸ばしていくことが大切になります。子どもを取り巻く環境が豊かであれば、そこでいろいろな出会いが可能となり、その出会いをとおして、さらに子どもの興味や関心が広がり、疑問をもってそれを解決しようと試みます。その子どもなりのやり方やペースで繰り返しいろいろなことを体験してみること、その過程自体を楽しみ、その過程をとおして友達や保育者等と関わっていくことの中に子どもの学びがあります。
- また、就学前教育施設において、子どもが小学校に就学するまでに、創造的な思考や主体的な生活態度の基礎を培うことが重要です。創造的な思考の基礎として重要なことは、自分のしたいことが広がっていきながら、たとえうまくできなくても、そのまま諦めてしまうのではなく、更に考え工夫していくことです。主体的な態度の基本は、物事に積極的に取り組むことであり、そのことから自分なりに生活をつくっていくことができ、さらに、自分を向上させていこうとする意欲が生まれることです。また、共に協力して目標を目指すことができるようになってくる時期でもあるので、園生活の中で協同して遊ぶ経験を重ねることも大切です。
- このようなことが小学校以降の教育の基盤となるので、就学前教育施設では、小学校教育の先取りをするものではない乳幼児期にふさわしい教育・保育を充実させる必要があります。
- 小学校学習指導要領では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること」と示されています。
- 小学校では、生活科や総合的な学習の時間が設けられており、学校教育全体として総合的な指導の重要性が認識されていると言えます。
- 小学校低学年は、就学前教育施設の教育・保育を通じて育まれた力を生かしながら教科等の学びにつなげていく時期であり、特に入学当初においては、スタートカリキュラムを編成し、生活科を中心に合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定なども行われているところです。
- 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続をさらに充実したものとし、一人ひとりの子どもの学びが現在から将来へとつながっていくために、国では「幼保小の架け橋プログラム」の実施等の施策を押し進めているところです。

(1) 幼保小の架け橋プログラムについて



(p. 7再掲)

- 文部科学省は令和3年5月、幼児教育スタートプランを策定しました。「学びや生活の基盤を支える幼児期からの教育の充実を図り、施設類型や地域、家庭の環境を問わず、全ての子供に対して格差なく質の高い学びを保障する『幼児教育スタートプラン』の具体化を強力に押し進める」としています。生活・学習基盤を幼稚園、保育所、認定こども園などの施設形態にかかわらず、全ての5歳児に保障する「幼保小の架け橋プログラム」の開発・推進、保護者や地域の教育力を引き出すための子育て支援の充実、幼児教育推進体制の整備、保育人材の確保及び資質・能力の向上などが柱となっています。7月には、中教審の初等中等教育分科会に「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」を設置しており、今後も幼保小の円滑な接続への議論をさらに深めていくところです。
- 令和4年3月31日に、文部科学省から「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」が示されました。「義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤を作るために重要な時期」とし、本手引き（初版）ではこの時期を「架け橋期」と呼ぶこととしています。
- 子ども一人ひとりが、将来、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となることができるようにするためには、幼児期の3要領・指針や小学校の学習指導要領の理念をより徹底し、充実した教育（教育・保育）を、「架け橋期」と

それにつながる時期、さらにその後の時期を通じて目指していくことが求められます。

- 「幼保小の架け橋プログラム」は、子どもに関わる大人が立場の違いを越えて自分事として連携・協働し、この時期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人ひとりの多様性に配慮した上で全ての子どもに学びや生活の基盤を育めるようにすることを旨とするものです。

- 「幼保小の架け橋プログラム」のねらいは次の4点です。
 - ・ 幼児期から児童期の発達を見通しつつ、5歳児のカリキュラムと小学校1年生のカリキュラムを一体的に捉え、地域の幼児教育と小学校教育の関係者が連携して、カリキュラム・教育方法の充実・改善にあたることを推進
 - ・ 3要領・指針、特に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の正しい理解を促し、教育方法の改善に生かしていくことができる手立てを普及
 - ・ 架け橋期に保育者等が行っている環境構成や子どもへの関わり方に関する工夫を見える化し、家庭や地域にも普及
 - ・ 幼児期・架け橋期の教育の質保証のための枠組みを構築し、データに基づくカリキュラム・教育方法の改善を促進

- この架け橋期のカリキュラム開発に当たっては、各市町村において、架け橋期のカリキュラム開発会議を構成し、各園・小学校における教育課程編成・指導計画作成の前提となる架け橋期のカリキュラム（架け橋期にふさわしい活動の在り方、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた教育方法の改善の視点など）の開発、架け橋期のカリキュラムの実施に必要な研修、教材としての環境の活用等の開発が求められています。

(2) 架け橋期のカリキュラム開発のための取組例

【事例1】 就学前教育から小学校教育への円滑な接続Ⅰ ～資質・能力をつなぐ～
 保育者と小学校教員が事例を基に資質・能力のつながりを考え作成した資料です。

(1) 思いをもって、伝え合って、わかり合って、育ち合おう！

就学前教育

わたし、〇〇ちゃんのと
 なりに座りたい！

一緒にお絵かきするのだから、
 いいでしょ！



だめだよ！
 シールのとおりに座らなきゃ。

このあと二人は、互いの思いを分か
 り合えず、泣き出してしまいます。
 周りの子どもたちも集まってきて、
 大騒ぎとなりました。

入園・進級当初、園生活への安心感を育みたい時期には、居場所を保障するという意味においても、自分のマークを座席に貼ったり、並ぶ順番を決めておいたりする援助は有効です。「決められた場所に」「ルールを守って」「自分のことは自分で」という「自立心」「道徳性」などが総合的に育まれることも期待できます。

しかし、上記のような「トラブル」は、次のような援助で、子どもたちが育ち合う絶好の機会となります。

Aちゃんは、一緒にお絵
 描きしたいから、隣に座
 りたいと思ったのね。

…思いの受容

一緒だと楽しいって思う
 のは、みんなも同じだから、
 Aちゃんの気持ちも
 分かるよね。

…思いの共有



Bくんは、決められた席があるから、ずれる
 と、みんなが困るよって教えてあげたか
 ったのね。

…主張の補足

みんなが困るのは嫌だよね、その気持ちも
 わかるよね。

…思いの共有

援助によって、二人は互いの思いをわかり合い、わかってもら
 えた喜びを味わいました。周りの子どもたちも、友だちの思いを
 わかる喜びを味わいました。

…感情の共有

そして、子どもたちの育ちとして学級の友達に関心が向いてき
 たと感じた保育者は、この後どんな座り方をするか、子どもたち
 と話し合うことにしました。

「決められた席」がないことで、「〇〇さんの隣に」という思いをもつことができます。そして、思いを実現するために伝えようとしてします。当然、その思いは何人かの子どもたちから表出され、ぶつかり合うこととなります。それによって、友だちの思いに気付き、わかり合おう、折り合いを付けようとする事ができるのです。

就学前教育施設では、保育者による、「一人の思いをみんなで共有する」、「思いが伝わる、実現される喜びをみんなで共有する」ための援助が必要です。

連続性・一貫性の調和のとれた支援

小学校教育

(例) 幼児期に育まれた協同性や言葉による伝え合いが発揮される場面

【そうじの役割分担】

今日はぼく
 ほうき係を
 したいな。
 かわってち
 ょうだい！



いつも雑巾
 係だったも
 んね。わか
 った、交代
 しよう。

保育園のときみたいに、順番
 決めようよ。みんなが交代で
 ほうきをできるよ！

【「全員遊び」の話し合い】

わたしは、
 なわ跳びが
 したいな。
 楽しいよ！



楽しいよね。
 じゃあ、みん
 なで遊べるよ
 うに長なわ遊
 びにしよう

ロープ回しや横へびならみんな知
 っているよね。新しい跳び方も先
 生に教えてもらおうよ！

小学校では、教師が決めたこと（当番やルールなど）を与えるだけではなく、子どもたち同士で様々な意見を交わす中で、新しい考えを生み出しながら工夫して取り組める環境を意図的に設定する支援が大切です。

(2) 困って、立ち止まって、考えて、楽しくあそぼう！

就学前教育

ぼくこのお店、やめた！作れないよ。ガチャポンみたいにうまく景品が落ちてこないんだ。



えー。開店は明日だよ。もう、年中さんにも宣伝しちやっただから、がんばって作ってよ！

年中さんが喜んでくれると思ったのに…。

C児は、思いを実現できないもどかしさや苛立ちから、他の子どもにちょっかいを出したり、ぼんやりしたりと、自分の遊びに没頭することができなくなりました。

子どもの思いを実現させていくには、イメージを実現できる材料や道具の提供、作り方の助言や共同作業、代案の提案などに努めることが大切です。「自分でやってみよう」「諦めずにやり遂げよう」「工夫してみよう」とする「自立心」「思考力」などが総合的に育まれることが期待できます。

しかし、上記のような「うまくいかない経験」は、次のような援助で、子どもがよりよく資質・能力を獲得していく機会にもなります。

連続性・一貫性の調和のとれた支援

イメージ通りできなくて「くやしい」と思っているのね。…感情の社会化どうすればうまくいくか先生と考えましょね。…依存できる安心感



みんなからもアイデアをもらいなあ、一緒に考えてくれる？
…協同的な活動の促し
…多様な考えの交流

落ちてこないのはどうしてかな？
この部分がどんな形だとよさそうかな？
いくつぐらいだと入りそうかな？
どんなものだとすべりやすいかな？ 等
…物の性質や仕組みへの気付き
…数量や図形の意識

活動が停滞していたC児は、保育者の援助や友達の様々なアイデアにより、考え直したり、新しい工夫を生み出したりしながら「ガチャポン」を完成させることができました。最初にイメージした仕組みとは少し違いましたが、C児の笑顔には、やり遂げた達成感と、みんなと同じ「お店」ができる喜びがあふれていました。

つまずき立ち止まることで、物事をいろいろな面から考え直したり、そのよさに気付いたりすることができます。「うまくいかなかった」という経験を経るからこそ、諦めずにやり遂げた自分を自覚し、自信を確かなものにしていきます。また、「うまくいかなかった」ときの対処の術（乗り越え方）も身に付けていくことができるのです。

就学前教育施設では、保育者による、「子ども同士で試行錯誤しながらも実現に向かおうとする」、「身近な環境と多様な関わりを楽しむ」ための援助が必要です。

小学校教育

(例) 幼児期に育まれた自立心や思考力が発揮される場面

【生活科の学習】

僕のお花枯れちゃったのかな。咲かないもの…。



私と一緒に水やりしているのにどうして違うのかな。

水の量かな、日の当たり方かな。お世話を工夫しながら、咲くまで観察を続けるぞ！

【運動会玉入れの練習】

1個も入らないから、つまらない。



かごから離れると入れやすかったよ！投げ方も変えてみたら？

そうか！近いとかごが見づらいな。離れて上投げしてみよう。一度に何個も投げてみよう。よし、次こそ入れるぞ！

小学校では、つまづかないように手立てを講じるだけでなく、子どもがつまづきと向き合い、自分で考えて行動できるよう、ゆとりのある生活の流れに配慮することが大切です。

(3) 走って、休んで、汗ふいて、体いっぱい動かそう！

就学前教育

もう1回やるよ、リレーごっこ。よーい、ドン！

次はチームかえて、やろうよ。よーい、ドン！

次はルールかえて、やるよ。よーい、ドン！



先生もやろうよ！
次は、コースをかえるよ。
よーい、ドン！

炎天下の中、子どもたちは夢中になって、運動会で経験したリレーを繰り返し楽しんでいます。汗を流し、息を切らし、ついには、地面に倒れこんでしまいました。

このような「体を動かす気持ちよさ」は、園生活だからこそ味わえるものです。運動機能や諸感覚の発達を促す遊びや活動を意図的・計画的に園生活の中に位置付けることが大切です。「自立的に行動しよう」「健康・安全に過ごそう」「見通しをもとう」とする「健康な心と体」が総合的に育まれることが期待できます。

上記のような場面では、次のような援助で、自分の心と体の状態を把握し適切に調整していく力を効果的に育むことができます。

たくさん走ったから汗をかいたね。休みましよう。
休むと心が落ち着くね。
…興奮状態と落ち着いている状態の自覚



ひと休みすると、体が元気になるね。汗を拭いて、着替えもしたから、もっと早く走れるかもね！

疲れた体を元気にするために水を飲みましよう。
…必要な行動
どれぐらい休んだら、また走れそうかな。
…時間の意識・見通し

このあとも子どもたちは、遊び方を変えながら、リレーごっこに熱中しました。しばらくすると、子どもたちから「そろそろ休憩！」と言う声がかかり、日かげで涼む姿も見られました。

遊び方を変えながらみんなが楽しめるように工夫したことや、繰り返し取り組み、その頑張りや技能が上達したことを褒められた子どもたちは、これからも自分のやりたいことに向かって伸び伸びと取り組むことができるでしょう。運動的な遊びをとおして、自分の心と体の状態を自覚して自分で調整した経験は、状況の変化に適応していく力にもつながっていきます。

就学前教育施設では、保育者による、「主体的に体を動かし多様な動きを楽しむ」、「健康や安全のための必要な行動を身に付ける」ための援助が必要です。

連続性・一貫性の調和のとれた支援

小学校教育

(例) 幼児期に育まれた健康な心と体が発揮される場面

【休み時間の外遊び】

6年生さんたちがしていたサッカーをやるよ！



違う遊びをしている人につつからないように場所を変えよう。

借りたボールを用具室に返さなきゃいけないから、〇分になったらやめようね！

【特別日程の日の学校生活】

今日はいつもと違って給食の後すぐ掃除だね。早めに食べ終わらないと！



あせっちゃうね。でもゆっくり食べないとお腹痛くなるよ。

今日は忙しいね。お掃除終わったら、ゆっくり本でも読みたいな。

小学校では、子どもたちが心や体を十分に働かせることができる活動を保障し、自分たちで健康で安全な生活をつくり出している実感をもてるようにしていくことが大切です。

【事例2】 就学前教育から小学校教育への円滑な接続Ⅱ ～教育課程をつなぐ～

(1) 教育課程の見直しから保育の充実へ

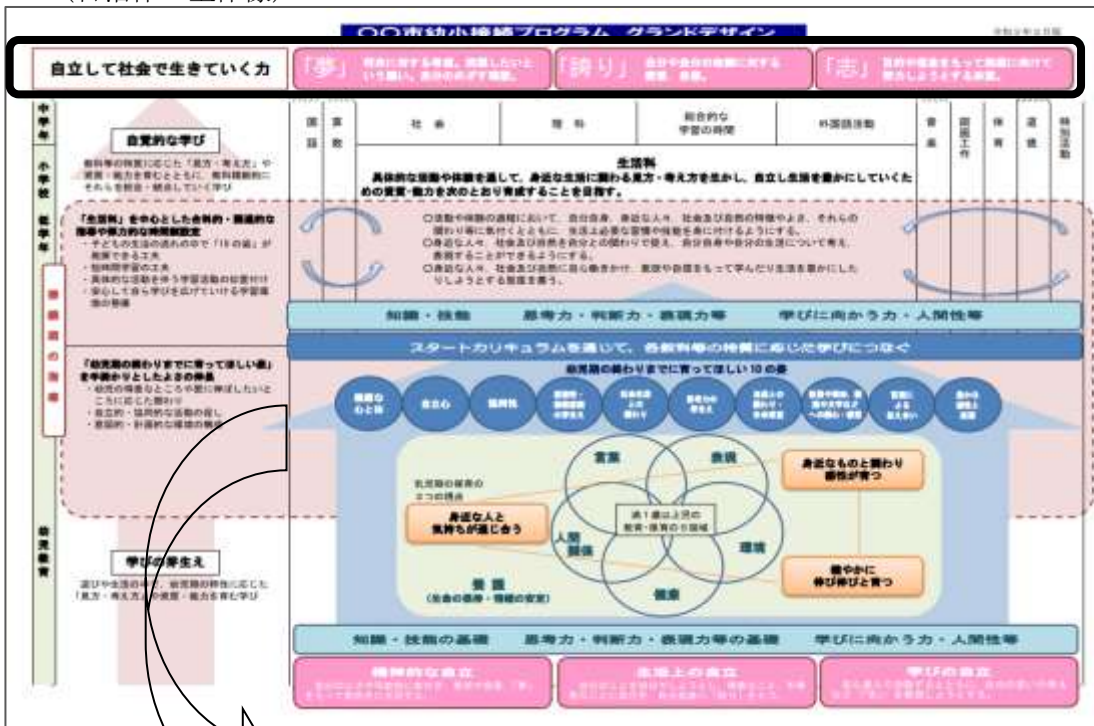
- ① 園内研修の進め方の事例 (p.58) 参照
- ② カリキュラム・マネジメントの事例 (p.59) 参照

(2) スタートカリキュラムの見直しから低学年教育の充実へ

保育者と小学校の教師が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに子どもの姿を共有したり、スタートカリキュラムの編成や見直しを協働で行ったりすることで、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続に取り組んでいます。

① A小学校の場合 ～自治体が示した幼小接続の全体像を基に～

(自治体の全体像)

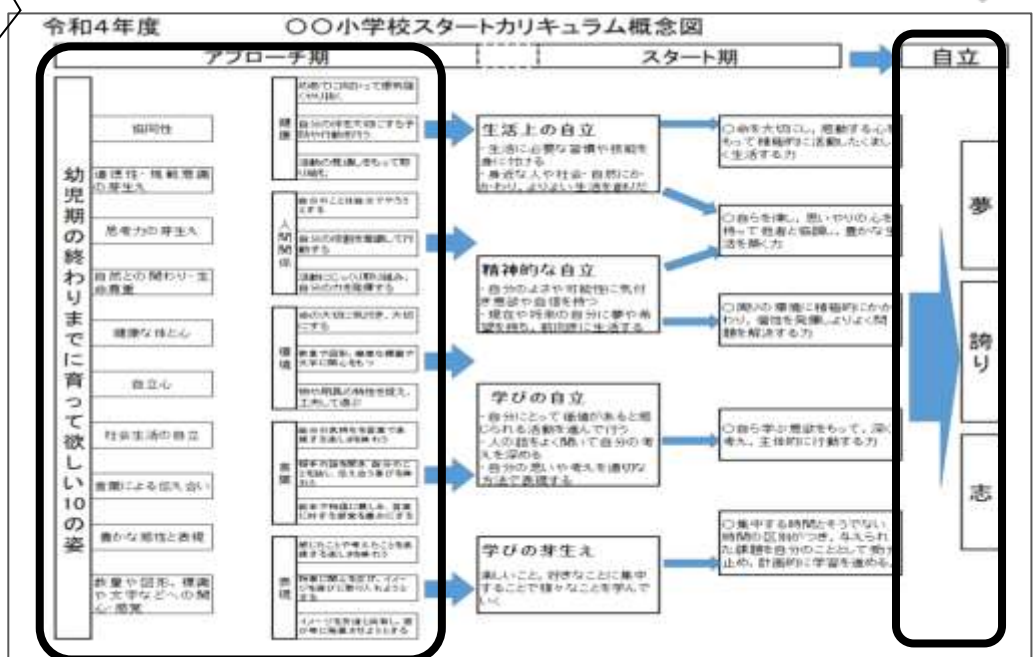


自治体として掲げる学校教育の目標（目指す子どもの姿）を全学校で共有し実現に向かうことで、各小学校区の特徴を生かした接続や教育活動が可能になります。

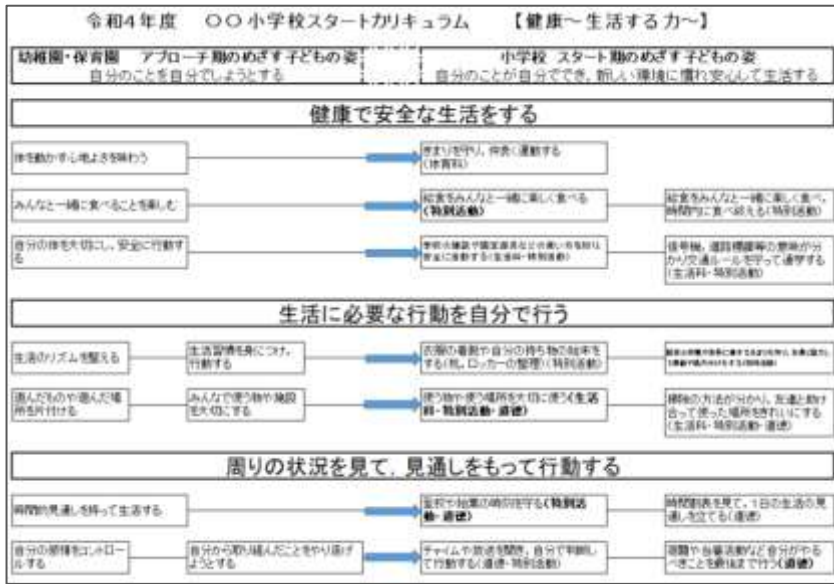
(小学校の全体像)

小学校によっては、複数の就学前教育施設から子どもが就学します。各園の特色ある教育課程を自校の教育課程と円滑につなげるためには、小学校の教師が「幼児期の教育」を十分に理解していることが必要です。

右の概念図のように、アプローチ期のどんな姿を自校の目指す姿につなげることができるか示し、全教職員で共有することが大切です。



(領域ごとの目指す子どもの姿の具体の姿)



五領域(「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現)」における「ねらい及び内容」は、園生活の中で様々な体験や具体的な活動が相互に関連し合いながら、総合的に指導されています。

左図のように、総合的に育まれた資質・能力を發揮している幼児期の姿が、小学校の授業ではどのように發揮・伸長されるか、教科・領域等に関連を示し、共通理解のもと全教職員で指導に当たることが大切です。

(入学当初の週計画)

様式②(週案用)		スタートカリキュラム週計画(第1～2週)					○○小学校
テーマ	たのしいがっこうのはじまり						●: 関連的 ★: 合科的
ねらい	小学校の生活を知り、1日の生活リズムに慣れるようにする。						
第○日	②	③	④	⑤	⑥		
時間	1	2	3	4	5	6	
科目	生活★	生活★	生活★	生活★	生活★	生活★	
1	1 道徳★ - あかあかあひつ	2/3 生活★ - 自己紹介 「どうぞよろしく」	1/3 生活★ - たのしいがっこう	2/3 体育★ - 整列をしよう - 道徳をしよう	1/3 算数★ - なかまづくりとかず	1/3	
2	1 生活★ - ねらいの目、両の目、学校に来たら? (縦横・傘立て) リズム遊び	1 生活★ - のどが乾いたら? (水飲み・トイレ) リズム遊び	1 体育★ - 整列の仕方 身体測定	1/3 学芸(劇団訓練)	1 国語★ ひらがな	1	
3	1 学芸 - 学校から帰るときは? (帰りの会・下校)	1 学芸 - 学校から帰るときは? (帰りの会・下校)	1 国語★ - 絵本の読み聞かせ - 絵のなぞり(書き)	2/3 生活★ - たのしいがっこう	2/3 国語工作★ 「好きなものいっぱい」	1	
4	1 生活★ - 給食を食べよう! 1/3 (準備・片付け)	1 生活★ - 給食を食べよう! 1/3 (準備・片付け)	1 学芸★ - 給食を食べよう! 1/3 (準備・片付け)	2/3 学芸★ - 給食を食べよう! 1/3 (準備・片付け)	1 国語★ - どうぞよろしく	1/3	
給食	簡単給食						
昼休み	簡単給食						
5	1	2	3	4	5	6	
教科	「ぐんぐんタイム」& 合科的・関連的な指導						
算数	第2日目 - ロッカー、フックの使い方を教える。 (6年生によるお手伝い) - 絵本の読み聞かせを行い、楽しく落ち着いた雰囲気ですスタートする。 - 明るくあたたかみを感じることで友達との交流を図る。 - 縦横・傘立ての使い方を教える。		第3日目 - 歌を取ったり、リズム遊びをしたりして1日をスタートする。 - 自己紹介を通して友達と関わる楽しさを味わう。 - 簡単給食のために、給食時間の待ち方を知る。 - 下校の仕方を確認する。		第4日目～ - 体育(関連的指導) - 整列ができるようになる。(身体測定・避難訓練) - 生活科「学校を歩こう」 - 縦横・トイレ・1年生各教室等場所と使い方を教える。 - 簡単給食に慣れる。		
国語							
生活							
音楽							
図工							
体育							
道徳							
学芸							
行事							
合計	18						

「目指す子どもの姿」を日々の教育活動で、どのように具現化していくか週ごとに立案します。

子どもの姿や意識をどうつなげていくか、関連的、合科的な指導を構想することができます。幼児期の教育で、総合的に資質・能力が育まれてきた遊びにより近い「生活科」を中核とした、関連的・合科的な指導を意図的に位置付けることが大切です。

(例: 右の週計画(第2～3週)より)

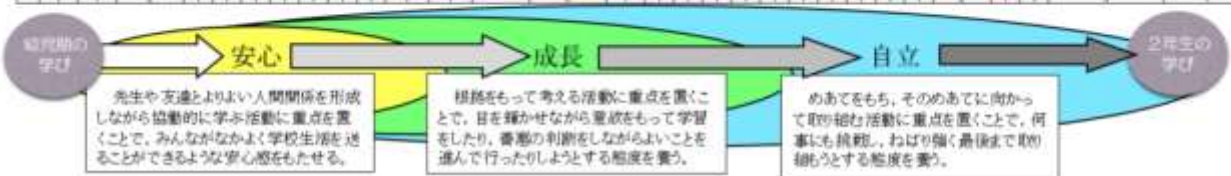
「ぐんぐんタイム」& 合科的・関連的な指導		
1日を笑顔でスタート - 絵本の読み聞かせを聞く。 - 歌を取ったり、リズム遊びをしたりと楽しく雰囲気ですスタートする。	合科的な指導(生活+学芸) - 学校にどんな教室(教室)があるのか興味をもつ。 - 友達と関わることを楽しむが、進んで交流する。	合科的な指導(生活+学芸+体育) - 1年生を迎える会に向けて、自分を表現する楽しさを味わうながら進んで取り組む。

② B小学校の場合 ～学校教育目標の具現化を目指して～

1 ○○小学校 スタートカリキュラムを意識した年間単元配列表
 令和○年度 第1学年 学年テーマ 「わくわく くんぐん みんなでかがやく1年生」

①よりよい人間関係を形成する ②積極性をもって考えたり感じたりする ③めあてをもち、ねばり強く取り組む

== 総合的な指導 == → 関連的な指導



2 ○○小学校 総合的・関連的に進める指導内容（幼児期との滑らかな接続により学校生活の土台を築くことを重点とした工夫）

月	教科	総合的・関連	教科	総合的・関連的な指導の具体	100項目との関連	幼児期との接続
4	生活 「がっこうだいすき」	総合的 ＝	国語 「どうぞよろしく」	生活科で、学級の友だちとかわかり、相手のことを知る学習活動において、国語科の「友だちを知ってもらいたいことについて考え、自己紹介をすること」や「自分の名前を丁寧に書くこと」について指導することで、意欲的に平仮名を覚えて自分の名前を書いたり、名前を知った友だちと一緒に楽しみながら学校探検を行ったりできるようにする。	(3) (5) (8)	よりよい人間関係を形成する
4	生活 「がっこうだいすき」	総合的 ＝	体育 「体つくりの運動」	生活科の学校探検で校庭や体育館で遊ぶ学習活動において、体育科や運動時間に使用する「場所の使い方やきまり」について指導することで、安全に楽しく友達とかわったり体を動かす楽しさを実感させたりする。	(1) (3)	
4	生活 「がっこうだいすき」	総合的 ＝	道徳 「あかるいあいさつ」	生活科の学校探検で様々な人とかわかる学習活動において、道徳科で「気持ちのよいあいさつ、言葉遣い、動作など心に届けて明るく接すること」について指導することで、子どもたちが先生方や友達と主体的に関わることができるようにする。	(4)	
4	生活 「がっこうだいすき」	総合的 ＝	特活 「がっこうはたのしいな」	生活科の学校探検で校内の施設を見学する学習活動において、特別活動で「きまりを守って生活することや時間を守って行動する大切さ」を指導することで、みんなで学校生活を楽しく送るための態度を養うことができるようにする。	(4) (5)	
4	生活 「がっこうだいすき」	関連的 →	特活 「きょうしょくのじゅんひをしよう」	生活科の学校探検で給食室の先生方とかわかった体験を、特別活動で「給食の準備や配膳を行ったり、残さず食べたりすること」に関連して指導することで、責任をもって当番を行ったり、感謝の気持ちをもって食べたりすることができるようにする。	(1)	
4	生活 「がっこうだいすき」	関連的 →	図工 「好きなものいっばい」	図画工作科で自分が好きなものを描いたものを用いて、友達同士で自己紹介をし合ったり、好きなものについてお話をしたりする。	(7) (10)	
4	生活 「がっこうだいすき」	関連的 →	算数 「なかまづくりとかず」	算数で身に付ける、「ものごとのとを対応させることによって、ものの数を比べたり、個数の順番を正しく数えたり表したりする力」が、生活科の学校探検で見つけたものを数える際に生かされるように指導する。	(8)	
5	生活 「きれいにさいてねわたしのおはな」	関連的 →	特活 「めざせてあらためてじん」	特別活動で「手洗いの目的を知り、正しい手洗いの方法を身に付けること」で、生活科のアサガオの栽培や探検には必ず手を洗い衛生面に気を付けて生活することができるように指導する。	(1) (2)	
5	生活 「はるがいっばい」	関連的 →	道徳 「かぼちゃのつる」	道徳科で「わがままをおさえて規則正しい生活をする」ということについて考えることで、生活科の春探検において、道路を広がらないで歩いたり、活動場所では時間を守ったりするなど、周囲の人に迷惑をかけないということに生かされるように指導する。	(2) (4)	
5	生活 「はるがいっばい」	総合的 ＝	国語 「こんなものみつけたよ」	生活科の春を探して発表する学習活動において、国語科の「自分の体験を思い出し、姿勢や話し方に気を付けて順序立てて話す」ということについて指導することで、「いつどこで 誰と 何を どのようにした」という観点に基づいて分かりやすく話せるようにする。	(7) (9)	

※ 「100の姿との関連」については、以下の番号を参照すること。

- | | |
|------------------|--------------------------|
| (1) 健康な心と体 | (6) 思考力の身生え |
| (2) 自立心 | (7) 自然との関わり・生命尊重 |
| (3) 協同性 | (8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 |
| (4) 道徳性・規範意識の身生え | (9) 言葉による伝え合い |
| (5) 社会生活との関わり | (10) 豊かな感性と表現 |

③ その他の実践例

4月 5日(水) ~ 4月 7日(金) の予定

小学校へ入学した子ども達が、幼稚園・保育園・保育所などの遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくことができるように考える。学習時間や学習内容を調整しています。4月の3の月曜は、特に、子ども達が安心して小学校生活をスタートできることを重点に、取り組んでいきます。ご理解とご協力をお願いします。

4月 5日(水)	4月 6日(木)	4月 7日(金)	4月 13日(木)	4月 14日(金)	4月 20日(木)	4月 21日(金)
<p>■ 1:15~3:00 [あそびの時間] 朝の活動 等</p> <p>■ 3:10~4:00 [朝の会]</p>						
<p>【にこにこタイム】 活動、学習、遊び、ゲーム、読書活動等</p>						
【活動】 「お楽しみ会」 お楽しみ会、お楽しみ会 お楽しみ会、お楽しみ会 お楽しみ会、お楽しみ会 お楽しみ会、お楽しみ会	【活動】 「お楽しみ会」 お楽しみ会、お楽しみ会 お楽しみ会、お楽しみ会 お楽しみ会、お楽しみ会 お楽しみ会、お楽しみ会	【活動】 「お楽しみ会」 お楽しみ会、お楽しみ会 お楽しみ会、お楽しみ会 お楽しみ会、お楽しみ会 お楽しみ会、お楽しみ会	【活動】 「お楽しみ会」 お楽しみ会、お楽しみ会 お楽しみ会、お楽しみ会 お楽しみ会、お楽しみ会 お楽しみ会、お楽しみ会	【活動】 「お楽しみ会」 お楽しみ会、お楽しみ会 お楽しみ会、お楽しみ会 お楽しみ会、お楽しみ会 お楽しみ会、お楽しみ会	【活動】 「お楽しみ会」 お楽しみ会、お楽しみ会 お楽しみ会、お楽しみ会 お楽しみ会、お楽しみ会 お楽しみ会、お楽しみ会	【活動】 「お楽しみ会」 お楽しみ会、お楽しみ会 お楽しみ会、お楽しみ会 お楽しみ会、お楽しみ会 お楽しみ会、お楽しみ会
11:00 (下校時間)	12:30 (下校時間)	14:35 (下校時間)	14:55 (下校時間)	14:35	14:55	

←保護者への通信

教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めることが大切です。

どのようなねらいで学習時程や学習内容が設定されているか、保護者の理解を得ることで、家庭と連携しながら円滑な接続を図ることができます。

「〇〇タイム」の実施→

弾力的な時間割の設定の一つとして、子どもたちの心の安定や期待感を高め、緩やかに小学校生活への移行を図る活動を位置付けます。

その際、右の実践のように、ねらいや方法、実際の様子などを全教職員で共有できるようにし、全教職員でスタートカリキュラムを実践していくことが大切です。

項目2 あくしゅタイムの実施について

あくしゅタイム 安心して学校生活を送るための活動の時間

- 家で読んだ本や活動を行う。
- 子供から親での経験を聞き、質問をかける。
- 友達と関わる活動を行う。

読み聞かせ、紙芝居 (教師、5年生)

家で読んだ本や紙芝居を通して、心を落ち着けることができます。

例 1.4月のねむりんりーず
ねずみくんのチャックシリーズ
はらぺこあおむし
音読

おしゃべり (友達と、先生と)

友達とお話することで、相手のことを知ることができます。仲良くなり安心して生活することができるようになります。友達関係が広がっていきます。

- ・自由におしゃべり
- ・先生も一緒にしゃべり
- ・お話を決めておしゃべり
- ・友達同士質問タイム

手遊び、歌、ゲーム (先生と、友達と、5年生と)

家で経験してきた手遊びや歌、ゲームをすることで、安心して学校生活に入ることができます。たくさんの人と関わることで、学校が楽しくなります。

手遊びの例
グーチョキパーで待つころろろ
とんとんとんアンパンマン
歌の例
パプリカ
エビカニカズ
ゲームの例
おたの おたの
運動会に行こうよ

項目3 見て動き、見通しをもつことのできる板書と掲示

誰かがなくても、「見て分かる」「見てできる」ようになります。自分の力で取り始めるようになります。言葉で説明するだけでなく、文字や図、写真などを活用することは、子供の理解を助けます。

1日の流れ

朝の支度

作業の手順

提出場所

名札置き場

机の中の使い方

←自立を促す環境構成

幼児期の教育における環境の構成を参考にし、子どもたちの主体的活動や質の高い体験を促す教室環境を整えます。

時間の見通しをもち、自分で判断しながら、自分から行動できるように促す左の写真のような視覚的な支援は有効です。

そのためにも、子どもたちが自分で判断し行動することができる、ゆとりのある生活の流れに配慮する必要があります。

【事例3】市町村教育委員会における幼保小接続に向けた体制構築の取組

令和4年度から2年間の指定で「岩手県幼児教育推進モデル指定研究事業」に取り組んでいる釜石市では、「推進チーム」を設置し、行政内における横の連携を図るとともに、教育研究所と連携し、幼保小のカリキュラムの改善を図っています。

《推進チームの取組》

(1) 幼保小接続推進体制の検討

- ・資質・能力を育成する乳幼児期からの教育の方向性について、就学前教育施設類型や校種を超えて理解を図るための体制構築（教育委員会、子ども課、校長会議、園長会議等、既存のものをどのようにつなぐか検討）
- ・幼保小接続（架け橋期の教育）に関する理解を深めるための研修会の企画・運営
（企画は子ども課と教育委員会、運営は子ども課、研修内容については教育委員会が担当）

(2) 「接続期のカリキュラム」の活用状況の把握と分析、「架け橋期のカリキュラム」の開発

- ・「接続期のカリキュラム」（釜石市教育研究所作成）の活用状況の把握・分析を行い改善を図る。
- ・釜石市教育研究所と協働して「架け橋期のカリキュラム」の開発を行う。

(3) 園内研修の充実

- ・指定園における園内研修の充実に係るサポート
- ・指定園での保育参観についての市内各施設への周知
- ・就学前教育施設における保育者の資質向上を図るための園内研修のあり方について、市内各施設への周知・啓蒙

